
第28回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業 報告書

The 28th Los Angeles High School Student Exchange Program Report



平成 28 年 7 月 23 日～8 月 9 日

July 23 -August 9, 2016

名古屋市観光文化交流局観光交流部国際交流課

International Relations Division, Tourism & Exchange Department,
Bureau of Tourism, Culture & Exchange, City of Nagoya

目次

■ 目次	1
■ 第 28 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について	2
■ 第 28 回ロサンゼルス交歓高校生・引率者	3
■ 交歓高校生のホストファミリー	4
■ 滞在日程	5
■ 事前研修会	6
■ 名古屋市役所表敬訪問	7
■ 帰国報告会	8
■ 自主研究テーマについて	
・ 朝田 直生（名古屋市立向陽高等学校 2 年）	9
『Differences between L.A and Nagoya』	
・ 柴田 優菜（愛知県立旭丘高等学校 2 年）	13
『Difference between USA and Japan～日本の少子化問題をみつめて～』	
・ 戸田 尚穂子（愛知県立千種高等学校 1 年）	18
『The education system in America』	
・ 不破 麻紀 ティナ（名古屋市立名東高等学校 1 年）	26
『大都市の構造の違い』	
■ 派遣事業を振り返って	31
・ 引率者 久賀 史恵（名古屋市立名東高等学校教員）	
■ 思い出の写真	34

■第 28 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について

名古屋市はロサンゼルス市と昭和 34 年(1959 年)に姉妹都市提携を結びました。姉妹都市交流の一環として、昭和 35 年(1960 年)から両都市が交互に高校生を派遣し、両都市の友好、親善を深めてきました。

平成 28 年(2016 年)は7月 23 日(土)から 8 月 9 日(火)までの 18 日間、名古屋から高校生4名と引率教員1名を派遣し、ロサンゼルスでのホームステイや現地の学校体験などを通して、市民レベルの交流を深めました。

現地での受入は、ボランティア団体である「ロサンゼルス名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)」の協力により実施されました。ハイスクール体験入学やカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)への通学体験、地元高校生への日本文化紹介、ロサンゼルス市議会への訪問や市内視察などを行うとともに、多くの時間をホストファミリーと過ごしました。この滞在を通じて、派遣高校生たちはロサンゼルス市民に名古屋を紹介するとともに、名古屋市代表としてロサンゼルスの文化を肌で感じてもらいました。

LANSCA とホストファミリーをはじめとする多くの方々のご協力を得て、充実した派遣事業を行うことができました。

■第28回ロサンゼルス交歓高校生・引率者

交歓高校生

	氏名	ふりがな	性別	学校	学年
1	朝田 直生	あさだ なおき	男	名古屋市立向陽高等学校	2
2	柴田 優菜	しばた ゆうな	女	愛知県立旭丘高等学校	2
3	戸田 尚穂子	とだ なおこ	女	愛知県立千種高等学校	1
4	不破 麻紀 ティナ	ふわ まき ていな	女	名古屋市立名東高等学校	1

引率者

1	久賀 史恵	くが ふみえ	女	名古屋市立名東高等学校	教員
---	-------	--------	---	-------------	----



(前列左から) 久賀先生、朝田さん、柴田さん、戸田さん、不破さん

■ 交歓高校生のホストファミリー

交歓高校生

名古屋		ロサンゼルス	
1	朝田 直生	Mr. Brandon Nekookar	ブランドン・ネクーカー
2	柴田 優菜	Ms. Alexandria Russell	アレクサンドリア・ラッセル
3	戸田 尚穂子	Mr. Karl Lin	カール・リン
4	不破 麻紀 ティナ	Ms. Sara Joy Salib	サラジョイ・サリブ

引率者

1	久賀 史恵	Ms. Erika Lopez	エリカ・ロペス
---	-------	-----------------	---------

平成27年(2015年)にロサンゼルスから名古屋を訪れた交歓高校生と引率教員が、ホストファミリーとして受入れを行いました。

平成29年(2017年)には、今回ロサンゼルスに派遣された高校生がホストファミリーとして、ロサンゼルスから来る高校生を受け入れる予定です。

■滞在日程

日付	内容
7月23日 (土)	名古屋(名古屋駅)11:03 発ー成田国際空港 13:56 着 UA 33 便 成田国際空港 17:00 発 ロサンゼルス国際空港 11:15 着
7月24日 (日)	ホストファミリーとの自由時間
7月25日 (月)	ハリウッド・ハイランド
7月26日 (火)	高校体験(エドワード・R・ロイバルハイスクール) ゲッティ・ミュージアム
7月27日 (水)	サンタモニカエリア
7月28日 (木)	ザ・グローブ (ファーマーズ・マーケット)
7月29日 (金)	ユニバーサルスタジオ
7月30日 (土)	ホストファミリーとの自由時間
7月31日 (日)	ホストファミリーとの自由時間
8月1日 (月)	リトル・トーキョーエリアなど
8月2日 (火)	グリフィスパーク訪問
8月3日 (水)	ロサンゼルス市表敬訪問、ダウンタウン散策 ザ・ブロード、ウォルトディズニーコンサートホールなど
8月4日 (木)	ホストファミリーとの自由時間
8月5日 (金)	UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校) 通学体験 UCLA プラネタリウム見学
8月6日 (土)	UCLA 通学体験
8月7日 (日)	UCLA 通学体験(Good-Bye Party ※出し物披露)
8月8日 (月)	ロサンゼルス国際 空港 11:50 発
8月9日 (火)	成田国際空港 15:00 着 17:00 発 名古屋(中部国際空港)18:10 着

■事前研修会

日時：平成28年7月9日（土） 10時00分～15時00分

場所：名古屋国際センター第3研修室

（名古屋市中村区那古野一丁目47-1 名古屋国際センタービル4階）

内容：

第1部 10:00～12:00

- （1）10:00～10:05 あいさつ
- （2）10:05～10:20 派遣生・引率教員自己紹介（1人3分×5人）
- （3）10:20～10:40 当事業の趣旨、概要、日程、出発までのスケジュールの説明
- （4）10:40～11:00 旅行手続、海外旅行保険等の説明、ホームステイの心構え、生活上の注意等
- （5）11:15～11:45 前回の派遣生からの助言
- （6）11:45～12:00 質疑応答

<昼休憩 12:00～13:15> ※保護者、前回派遣生は午前中で解散。

第2部 13:15～15:00

- （1）13:15～13:30 記念品の配布、割り振り
- （2）13:30～14:30 自主学習テーマ、サヨナラパーティーでの出し物、スピーチ等の役割分担決定
- （3）14:30～15:00 まとめ、質疑応答

■名古屋市役所表敬訪問

1 日 時 平成28年7月20日（水） 10：30～11：00

2 場 所 市役所本庁舎4階 貴賓室

3 対応者 名古屋市観光文化交流局長 渡邊 正則
名古屋市観光文化交流局観光交流部長 近藤 善紀
名古屋市観光文化交流局国際交流課長 伊藤 毅
名古屋市教育委員会指導室指導主事 久木田 隆宏



■帰国報告会

1 日 時 平成28年8月29日（月） 16:00～16:30

2 場 所 市役所本庁舎4階 貴賓室

3 対応者 名古屋市観光文化交流局長 渡邊 正則
名古屋市観光文化交流局国際交流課長 伊藤 毅
名古屋市教育委員会指導室指導主事 久木田 隆宏



■自主研究テーマについて

Differences between L.A and Nagoya

名古屋市立向陽高等学校 朝田 直生

僕たちは、2週間ロサンゼルスで暮らす高校生の家にホームステイさせていただきました。その期間でたくさんのことを感じ、学ぶことが出来ました。また、今回のこのホームステイが僕にとっての初めての海外体験ということもあり、僕は日本とアメリカとの文化の違いにとっても興味があったので、テーマにしようと決めました。

1. 住居や街並み、生活様式について

- ・街並みは、日本とは違い、一階建ての建物が大半でした。ホストブラザーも、二階建ての家は珍しく、あまり見かけないと言っていました。

- ・住居ですが、僕のホストファミリーは集合住宅に住んでいて、僕が思っていたより狭いという印象を最初に受けました。また、日本ではトイレと浴槽が別々に設置されていますが、アメリカでは一緒の空間に設置されていることが多いそうです。最初は慣れてなくて使いづらかったです。また、僕のホストファミリーは、洗濯物は基本的に身体を洗う時に洗い、そのままバスルームに干すという方法を取っていました。それでも、1,2週間に一度は共同の洗濯機で一気に洗い物をするようでした。僕もそれにならってやってみましたが、日本とは違うので新鮮な感じがしました。日本ではこれはあまり出来ないなと思いました。

- ・僕がホストファミリーと行動して教えてもらい、感じたロサンゼルスの日常というものは、とても忙しいものだ、ということです。朝早くから車の音が聞こえ、8~9時の間の高速道路では軽い渋滞が起きる程でした。そのせいかホストマザーは渋滞が大嫌いで、よく渋滞を見ると愚痴をこぼしていました。また、僕がどれだけ早く行動しても、「Hurry up! (急いで!)」と言われました。ホストマザーは、早く行動することが大事なんだよと僕に教えてくれました。



2. 食事について

- ・朝食は、主にパンを食べました。日本では「ご飯派」「パン派」という言葉がありますが、さすがにロサンゼルスには「ご飯派」はおらず、パンの他に、早く済ませたい時にはチョコ味のシリアルと牛乳を食べました。
- ・夕食は、ホストファミリーがロサンゼルスにある国際色豊かな料理店によく連れて行ってくれました。ホストマザーがコロンビア出身ということもあり、特にメキシコ料理のお店に連れて行ってもらいました。様々な国のお店が家の近くにあり、そこにすぐ行けるとするのは日本と大きく違う点かと思います。メキシコ料理以外にも韓国料理や日本料理など、たくさんの種類の料理店がありました。地元の人達はそれら全ての料理を愛しているように思われました。



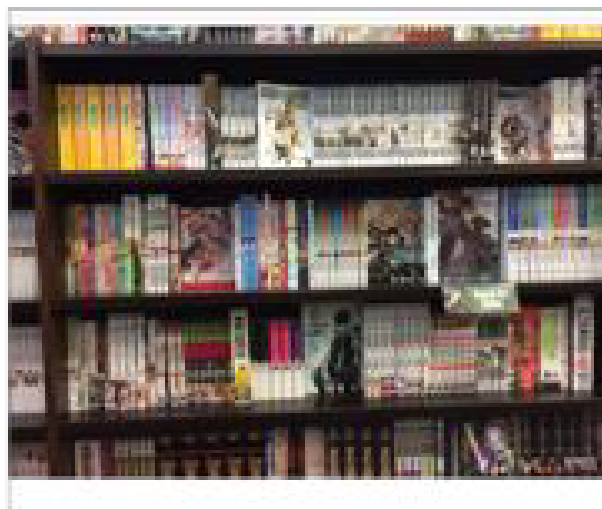
3. アメリカ人の性格、気質について

・ロサンゼルスで過ごしていて気付いたのが、アメリカの人はとてもとてもフレンドリーだということです。これは僕が元々持っていたアメリカ人へのイメージでもあります、現地で接して改めて思いました。最初は握手から入り、初対面なのにあたかも親しい友達のように温かく、また明るく接してくれて、とても楽しい雰囲気になってくれました。また、ホストマザーの友達と会食した時には、その友達の友達という人と、初対面なのにとても親しげに、夜の11時まで1時間以上も喋っていました。それも他愛もない話でなく、真剣な話をしていたように聞こえました。ホストマザーもホストブラザーも真剣な顔をしてその人と喋っていて、最初僕は彼らが初対面だとは思わず、「どれくらいの付き合いの人なの？」と聞いてしまったくらいです。するとホストマザーが笑いながら「今日初めて会った人だよ。」と教えてくれました。これが僕の感じた日本との大きな違いだと思うのですが、おそらく日本ではこのようなことはない、あってもそう日常的に起きることではないと思います。

・大学のオープンキャンパスも経験させて頂きました。そこで行われていた、どうやって大学に入るのかという講義に僕たちも参加しました。それは、大学に入るための徹底講義というものでした。僕たちの他にもたくさんの高校生が参加しており、色々と質問をしていました。その質問というのは、もちろん大学に入るために何をどうしたらいいのかというのもありましたが、多く飛び交っていたのは、「私が取っている教科は〇〇と〇〇なのだが、これで大丈夫なのか。」等の、個人に関する事でした。日本では、あまりそういった場で自分個人に関する質問は出ないと思います。日本だとそれが終わった後に個人的に聞きに行くというのが普通だと思うのですが、アメリカでは違いました。そういった質問がどんどん飛び交う様子は、日本ではなかなか見られないと思いました。

4. アメリカで見た日本

・僕自身がアニメやマンガなどが好きなので、それらのロサンゼルスでの普及には興味がありました。具体的なアンケートをとった訳ではありませんが、かなり普及していると感じました。なぜなら、ロサンゼルスではコスプレサミットのものが展開されているからです。また、本屋に連れて行ってもらった時に、その一角にはたくさんのマンガが置いてあり、アメリカ人が手に取っている姿も見られました。また、他のアメリカの交歓留学生の人たちとも、マンガなどの話をして盛り上がる事が出来ました。彼らはマンガ、アニメが大好きで、なかには、マンガを英語名でなく日本語名で呼ぶこだわりを持つ人もいるほどでした。



・現地には、マンガ、アニメだけでなく、意外な物もありました。アミューズメント施設の ROUND1 です。セブンイレブンなどは現地にあるだろうというイメージがあったのですが、ROUND1 は少し予想外でした。→



中にはボウリングとゲームセンターがあり、ゲームセンターで獲得できる券を景品に交換できる交換所がありました。ゲームセンターではレトロな物から最新の物、なんとつい最近日本から輸入されたと思われる日本語の説明付きのゲームなどもあって、日本ではこのようなことはないと思いました。ホストブラザーに「この人達は日本語の説明がわかって遊べるのか」と聞いたら、「分からない」と笑って言われました。

5. ロサンゼルスが多国籍性について

・僕の個人的な先入観として、日本には日本人がいるので、アメリカには当然白人系の方が多いというイメージがありました。しかしそんなことはなく、着いたそばから中国系、韓国系、様々な人たちがいました。そもそもホストマザーがコロンビア出身という時点で、日本ではまずありえないと思います。また、現地に住んでいる日本人の方も多数いらっしやっていて、ホストマザーの親友の1人は日本人でした。また、ホストブラザーの一番の親友も日本人でしたし、保育園からの友達も日本人でした。思っていたよりかなり日本人の方がみえて驚きました。

今回の体験で、自分のまったく知らなかった世界を知ることが出来ました。多文化が共存しているロサンゼルスでの2週間は、あっという間でしたが、僕にとってとても貴重な体験となったと思います。この体験は、僕の国際的な視野を広げてくれました。このプログラムに関わって下さった方々には、感謝してもしきれません。大変ありがとうございました。

Difference between USA and Japan

～日本の少子化問題をみつめて～

愛知県立旭丘高等学校 2 年 柴田 優菜

① はじめに

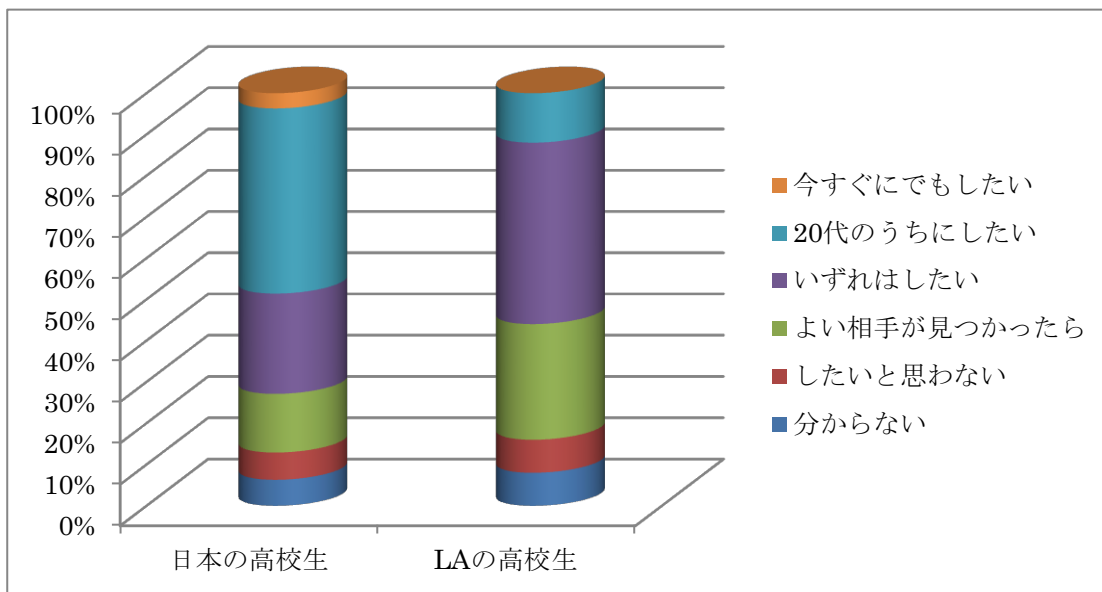
私は小さい頃から助産師になることが夢なので将来たくさんのお母さんや赤ちゃんの力になりたいと思っています。ところが、最近の日本では急激に少子化が進み、社会では子どもが不足しています。そこで、今回アメリカに留学するにあたって、現地の高校生へのアンケート調査、こども病院の医師やホストファミリーへの取材を行い、その結果と UCLA での体験を通してアメリカと日本の違いがどう少子化に繋がっているのかを調べました。

② 結婚観と子どもについてのアンケート調査

今回、UCLA にいた現地の高校生 25 名に協力してもらい、アンケート調査を行いました。

Question 1

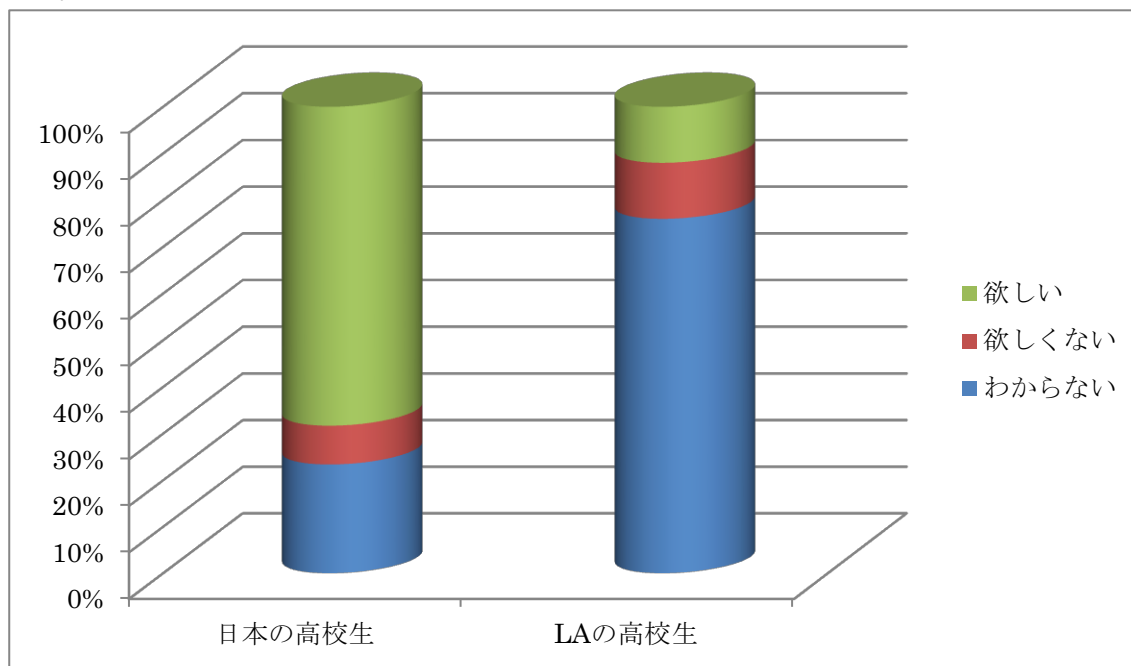
Do you want to marry? ～結婚したいと思いますか?～



もっと 20 代のうちに結婚したい人が多いと思いましたが、大学でアンケートを行ったこともあり、結婚せずに夢を追って働きたい人もいたみたいです。また、結婚を信じていないという意見もありました。意外とアメリカも似たような結婚観を持っているみたいです。

Question 2

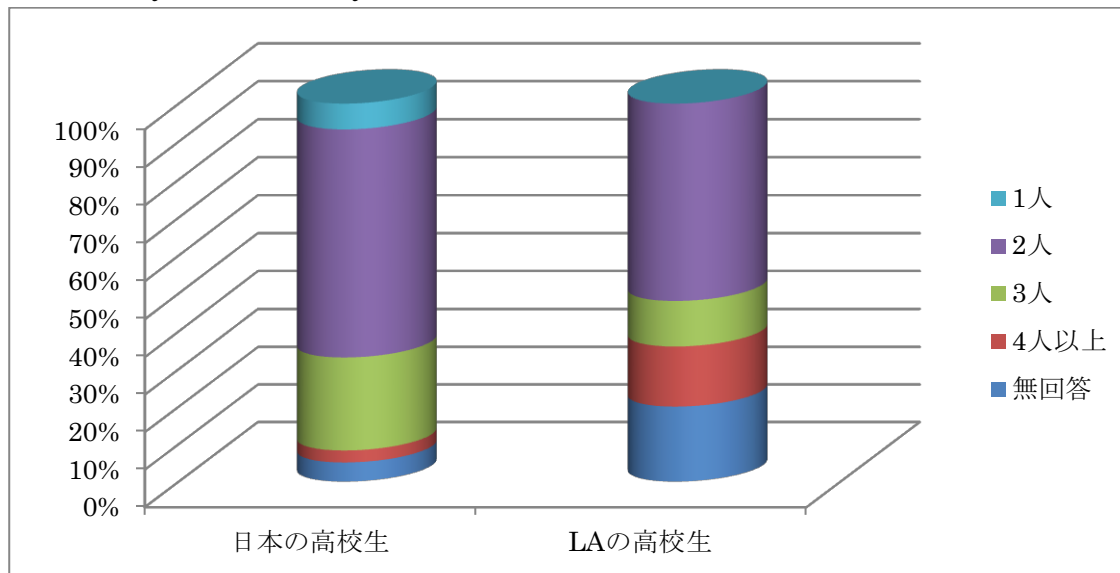
Do you want children in the future? ～将来子どもは欲しいですか?～



話を聞いていると、まだあまり将来のことはわからない人が多いみたいです。結婚はしたいと考えていても、まだ子どものことは考える人は少ないようです。

Question 3

How many children do you want? ～理想の子どもの数～



子どもを持つとしたらやはり日本より4人以上欲しい人が圧倒的に多いみたいです。

Question 4

Do you think the system of maternity leave and childcare services in America are satisfying?

○出産後、女性に与えられる育児の時間が少なすぎるという意見があるように、アメリカ

では育児休暇を取る人がとても少ないそうです。そのため、旦那さんがとても協力的に育児を行う家族が多いようです。

③ ロサンゼルスの子ども病院での取材



Q: 子どもを育てる余裕がない人を援助するプログラムは何がありますか？

A: プログラムの1つに、Ccs(California children services)という社会事業団があります。これはカリフォルニア州のプログラムで、いくつか病気や障害を持っている21歳未満の子どもたちを対象に、金融収入が得られない人や自分たちで費用を払う手段が無い人たちのために州がその費用の一部を負担するというものです。

また、わたしたち OIC(Orthopedic Institute for Children) (小児整形科機関) は、寄せられた寄付金で緊急な治療やケアのサポートを行っています。

～OIC のフェスティバルにて～

今回、OIC 主催の Fun and Fitness CARNIVAL に参加させてもらいました。

このフェスティバルは、だれでも無料で参加することができ、飲み物やお菓子、食べ物、ゲームを無料で提供していました。そこには、この病院で、治療を受けている子どもたちや障がいを持っている子どもたちがたくさんいました。

最も印象に残ったゲームは、障がいを持った人のスポーツを体験してみよう、というものです。ひとつは、目隠しをしてパートナーの声をたどってボールを遠くにある穴に入れるというゲームです。いざやってみると自分が想像で投げている方向や強さと実際は、かなりずれがありました。もうひとつは競技車いすでのバスケです。車いすで移動をしながらボールも取られないように進むのはかなり難しかったですが、楽しかったです。

このように、子どもたちを楽しませ、みんなに知ってもらうことで寄付金も集められ、よりたくさん子どもたちを助けることができるうえに、障がい者を理解するいい機会をつくることができました。

日本では、このような子どもの医療機関が主催するお祭りはあまり聞いたことがなかったので、とても新鮮でした。

④ ホストファミリーの話と体験談

ロサンゼルスでは、ホームレスの人には、子どもを1人生むと5年間補助金が1か月に200ドル支給されるそうです。また、ホストシスターのアレックスのお父さんは、事故で車いすでの生活をしているため、アレックスの通学している私立の高校の教育費が援助されるみたいです。

このように、アメリカは教育費への補助が手厚いと思いました。



町の様子をみていると赤ちゃんを連れているお母さんには周りの人がとても優しく、困っていれば大人も子どもも、男の人でも女の人でもみんなそのお母さんを助けようとします。そんなアメリカの、みんなで子どもを大切にしようというような雰囲気がお母さんにとって子育てをしやすい環境を作っているんだなと思いました。

けれど、日本では電車や屋内で泣いている赤ちゃんを必死にあやしているお母さんの前であからさまに嫌な顔や態度をとる人がアメリカと比べると多く感じ、とても悲しいことだと思います。また、アメリカでは旦那さんが育児にとっても協力的で、送り迎えや子守も日本より積極的に行っている印象が強かったので、日本でも女の人ばかりが家事、育児をするという固定観念ばかりにとらわれず夫婦で協力して子どもを育てて欲しいと思います。



⑤ UCLA の補助

大学には、EOP(Educational Opportunity Program)というのがあり、二世の人や低収入の生徒たちが自分の個性や能力をお金のために発揮できないことがおきないように、カウンセリングや金銭面のサポートをしています。このサポートを受けると、早くから授業受けることもできて単位もはやくとることができるなどとても待遇がいいです。



⑥ 結論

アメリカでは生活費や教育費、国民の考え方、子どもへの思いやりのすべてが影響して子どもの数が減少していないのだと分かりました。

このように、日本はアメリカのいいところを見習っていつか子どもが溢れる幸せな国になって欲しいと思います。

⑦ 最後に

この留学での研究テーマを進めるにあたって、こころよくアンケートに答えてくれた高校生の生徒たち、取材に答えてくれたお医者さん、そしてアンケートの時も病院で取材する時もずっと協力をしてくれたホストシスターのアレックスとホストマザーのアニータに本当に感謝したいです。

今回アレックスと18日間一緒に過ごして、最初は自信も積極性もなく、いつも「何でもいい」とか「どっちでもいい」ばかり言っていてよくアレックスにこれは私のよくない癖だと言われました。けれど、毎日一緒にアメリカで過ごしているうちに、自分から積極的に行動することができるようになり、自信も持てるようになりました。そのおかげでプロジェクトも順調に終わらせることもできました。

私は、このロサンゼルスに行く前に色々あり、一時は行けなくなるかもとも思いましたがホストファミリーがすごく支えてくださり、最高の思い出を作れました。本当にたくさん迷惑もかけましたが、いつも優しく接していただきありがたかったです。

きつとこの先このような機会は二度とないと思います。本当にこの派遣に参加できて、7人の仲間に出会えてよかったです。今回の派遣で得たことを生かしてこれからは自分が社会に貢献していきたいと思います。

The education system in America

愛知県立千種高等学校 1 年 戸田尚穂子

☆はじめに☆

私は小学生の頃、アメリカのミシガン州に数年間住んでいたことがあります。現地の小学校へ通い、とても充実した学校生活を送ることができました。それからずっとアメリカの教育について関心をもっています。

アメリカの小学校は、日本の小学校とは全く違ったものでした。高校生になった今、アメリカと日本の高校の教育の違いについて知りたいと思ったので、教育について調べことにしました。今回のプログラムでは、授業体験は出来ませんでした。ホストブラザーに様々な大学や高校に連れて行ってもらったり、色々な話を聞かせてもらいました。

☆ロサンゼルス教育☆

*授業

日本では、理系、文系に分かれるものの、ほとんどの生徒が同じ科目の授業をとる。クラスごとに時間割が決まっていて、基本的に自分の教室からは移動せず、科目によって決められた担当の先生が教室にきて、授業をする。同じクラスの人達は、ほとんど同じスケジュールで行動する。

しかしアメリカは全く違った。日本にくらべて、かなり複雑である。

まず、一つの科目について、三つのレベルがある。普通→HONORS→AP となっている。AP というのは、Advanced Placement の略で、大学一年生レベルの内容を扱うクラスである。高い GPA（後に説明）が必要で、実際に大学で半年間かけて取得する単位も、年の最後に行われるテストに合格すれば、高校で取得することが可能である。このテストの評価は五段階評価となっていて、3 以上で合格となる。すなわち早く専門コースや難しいコースに進んだり、十分な単位を取れば、早く大学を卒業することもできる。

クラスの難易度は、自分のレベルに合わせて選ぶことが出来る。また、科目も自分で学びたい科目を選択することが出来る。選べる科目も、二十科目近くある。多くの学校では、合計六つクラスをとるそうだ。私は今日本の高校で、一週間で十五科目程のクラスをとっている。それと比較してみると、とても少ない。だが、もちろん何でもかんでも好きに選べばいいわけではない。高校を卒業するまでに、英語 4、数学 3、理科 2、歴史 2、外国語 2、芸術 1 など、必ず取らないといけないクラスもある。また、どこの大学を受けるかによって、選択しなければならない科目が決まっている。下記がその例だ。これには CSU（カリフォルニア州立大学）と UC（カリフォルニア大学）、それぞれの大学を受けるために高校卒業までにとらないといけない科目とその数が書かれている。

そして、先生が自分たちの教室に来るのではなく、生徒が、自分の選択した科目の教室へ移動する。受け身ではなく、生徒が自主的に行動する。

CSU-UC Comparison of Freshman Admission Requirements for 2014-2015 Applicants		
	California State University (CSU)	University of California (UC)
SUBJECT REQUIREMENTS		
	15 yearlong college preparatory courses are required with grade of C or better:	
		11 UC-required college-preparatory courses must be completed prior to senior year (including summer courses)
"a" History/Social Science	2 years of history/social science, including one year of U.S. history OR one semester of U.S. history and one semester of American government, AND...	
	1 year of history/social science from either the "a" or "g" subject area	1 year of world history, cultures, and geography from the "a" subject area
"b" English	4 years of college preparatory English composition/literature (including no more than 1 year of Advanced ESL/ELD)	
"c" Mathematics	3 years of mathematics (algebra I and II, geometry); 4 years recommended*	
"d" Laboratory Science	2 years of laboratory science	
	At least 1 year of physical science and 1 year of biological science, one from the "d" subject area and the other from the "d" or "g" area**	Must include at least two of the three foundational subjects of biology, chemistry, and physics; both courses must be from the "d" subject area; 3 years recommended
"e" Language Other Than English	2 years (or equivalent to the 2 nd level high school course) of language other than English (must be the same language, American Sign Language accepted)*	
		3 years recommended
"f" Visual and Performing Arts	1 yearlong course in visual and performing arts (selected from dance, music, theatre/drama and visual arts)	
"g" College Preparatory Elective <i>extra, not main subjects</i>	1 year of an elective chosen from any area on approved "a-g" course list	
	Note: Numerous Career Technical Education courses are approved for fulfillment of "a-g" subject requirements.	
REPEATED COURSES		
	Required "a-g" courses must be completed with a grade of C or better. Courses in which grades of D/F are earned may be repeated. The highest grade will be used in the GPA calculation.	
		UC only allows a course to be repeated one time for grade replacement.

* Coursework completed in 7th or 8th grade can be used to satisfy "c" and "e" requirements.

** It is best to prepare for both UC and the CSU by completing two laboratory courses from the "d" subject area.

115

Information accurate as of August 2013

* Coursework completed in 7th or 8th grade can be used to satisfy "c" and "e" requirements.
 ** It is best to prepare for both UC and the CSU by completing two laboratory courses from the "d" subject area.

115
 Information accurate as of August 2013

*Credits, 単位

Credit とは、日本で言う単位のようなものである。もし十分な Credit をとれなかったら、進級できなくなったり、もう一度同じクラスを取り直さなければいけなくなる。ロサンゼルス市の多くの学校は二期制で、各学期ごとに最低 30 が取得できる。つまり一年間で最低 60。LAUSD (Los Angeles United School District)、ロサンゼルス統一学区の高校では、クラスで GPA が C (70%+) を下回れば、もう一度そのクラスを取り直さなければならない。逆に、高校卒業に必要な単位をとってしまえば、高校に四年間通わなくても卒業出来てしまう、ということになる。

*GPA

Grade Point Average の略で、成績平均値を意味する。五段階評価で、A=4 ポイント、B=3 ポイント、C=2 ポイント、D=1 ポイント、E=0 ポイントとなっている。アメリカの高校はほとんどが二学期制なので、年に二回、各学期ごとの GPA がもらえる。そしてその二つの平均が、一年間の総合 GPA となる。

*宿題

日本では、問題を解く、という単純な作業の宿題が主であるが、アメリカでは違った。ホストブラザーに、実際に出された宿題を色々を見せてもらったが、調査やレポートがほとんどだった。驚いたことは、宿題をパソコンを使ってやっていたことだ。もちろんすべ

てではないが、日本の高校ではパソコンを使って宿題を提出する、ということはない為、とても驚いた。

レポート式の宿題の例として、歴史の宿題を取り上げてみる。指定された出来ごとについて自分で色々調べ、文章にして用紙にまとめる。そしてそれを提出して、改善点とともに十点満点で点数がつけられる。そして、驚いたことに、書いたレポートをクラスの人に見せて、その人達に評価をしてもらう。それも一人ではなく、複数の人に。用紙の余白には、改善点やアドバイスがたくさん書き込まれていた。日本でも、ごく稀にレポートのような課題をやることがあるが、先生以外の人に評価をしてもらうということはない。少なくとも私はそのようなことをやったことがない。生徒同士でお互いを高め合う、ということはどうやって行われるべきなのだな、と考えさせられた。

アメリカでは宿題が多く出される、ということをよく耳にするが、それは本当のことだと思う。ホストブラザーに、今までにやった宿題を見せてもらったとき、わたしは唖然とした。レポートだけでも、閉じ穴式のファイルから、溢れ出るほどだった。しかもそれはたった一年間でやった宿題の量であった。日本ではあまり宿題というものは出ない。出たとしても、問題を数問解くくらいだ。日本では学校の後に学習塾に通う生徒が多いため、そこで出される宿題を考慮して、学校の宿題の量は抑えられているのかもしれない。レポートのようなものは、小学校や中学校の夏の課題として出される程度だ。平日にパソコンを使って調べ物をしたり、作業をする、というようなことはほとんどしない。

アメリカでは、自分で調べてレポートを作り上げる、ということをしていているようだ。

*その他

・義務教育：アメリカでは Kindergarden（幼稚園）から High School（高校）までの 13 年間は義務教育である。つまり、高校までは学力などに関係なく、基本自分の学区の学校に通う。日本の学校では、教科書などは自分のものとして使うが、アメリカでは学校から借りる。そして使う必要がなくなったら学校に返却する。また、日本ではどの教科であっても教科書を使用するが、アメリカでは、教科書の代わりにパソコンや、プリントで資料を配布することもある。

・スクールカウンセラー：アメリカの学校には、スクールカウンセラーという人がいる。日本でも悩み事などを相談できるスクールカウンセラーが定期的に学校に来るが、それとは大きく違う。アメリカのスクールカウンセラーは、精神面での悩みも聞いてくれるが、主に進路について一緒に考えてくれる。いわゆる、“進路のプロ”、でもある。実際に、ホストブラザーの通っていた高校の進路室に入ったが、机やソファが沢山置いてあり、生徒が様々なことについて落ち着いて相談が出来る空間となっていた。

・ASB:Associated Student Body の略。日本でいう、生徒会のようなもの。でも、彼らは合計 40 人程いるそう。彼らが中心となって、学校行事を作り上げていく。私が高校を訪れた時は夏休み中だったが、彼らは活動をしていた。

・Clubs：アニメクラブ、フィルムクラブ、キークラブなどたくさんある。他、同性愛者や女性の権限について考えるクラブもある。この、クラブというのは部活とは違って、スポーツはない。

・Athletics：これは、日本で言う部活（運動部）のようなものである。ただ日本では、転部をしない限り受験までの二年間半はずっと同じ部活に所属するが、アメリカではシーズンによって行うスポーツが異なる。また、シーズンが始まる前に、トライアウトという入部テストがある学校もあるとのこと。

例：春～夏 陸上、夏～秋 アメフト、秋～冬 水泳 など。

・建物：全体的にとっても広々としていた。日本のように横長の建物が幾つもあるのではなく、一つの大きな建物の中に、たくさんの教室がある、という感じだった。そして驚くことに、職員室というものがなかった。そして、校内グッズ販売の場所があった。



☆大学☆

今回は高校の教育をメインに調べたが、UCLA で行われた、大学の受け方を学ぶプログラムに参加させてもらったほか、様々な大学に連れて行ってもらったので、大学についても少し学ぶことができた。

まず、アメリカの大学は日本のように、一つの試験を受けて学校に入学出来るか出来ないかが決まるわけではない。GPA、SAT または ACT どちらか点数の高い方、パーソナルステイトメントなどによって決められる。つまり、一発勝負ではなく、高校の総合で決められるのだ。日本では、受験期になってから一気に追い込んで受験勉強をやる人が多い。しかしアメリカでそれは通用しない。一年生の時から頑張っていないといけないのだ。

また、日本は学力がとても重視されるが、アメリカは人物重視だ。もちろん学力は必要だが、高校生の時にどのようなことをやってきたかが非常に大事になってくる。すなわち、いくら勉強ができて高校で勉強以外何もやってこなかったら、希望の大学に合格する確立はかなり低くなる。



☆教育について調べた感想☆

アメリカの教育について、以前からとても興味があったので、高校生である今、アメリカの教育について知ることができてよかったです。日本では多くの高校生が、テスト前と受験のときに一気に勉強をします。しかしアメリカの高校生は、ある期間に一気に勉強するのではなく、日頃から勉強をしているようです。また、アメリカでは生徒が中心となって学校をつくりあげているようです。だからアメリカの人は皆それぞれしっかりとした考えを持っていて、行動力があるのだな、と感じました。

勉強面で言えば、日本では、皆がほとんど同じ内容を学びます。アメリカでは、自分の将来の夢に関わるもの、自分が学びたいものを、自分のレベルに合わせて学びます。そして学校で最も重視されるのは、それぞれの「行動力」です。実際に、UCLA で大学の受け方について学ぶプログラムに参加させていただいたのですが、勉強さえよく出来ればいいわけではない、ということを学びました。日本では、テストの点数が重要視されがちですが、もっと人間的なことを重視するべきだ、とアメリカの教育について知ってから思うようになりました。

☆全体の感想☆

今回の派遣では、たくさんのことを学ぶことができました。

ロサンゼルスには、チャイナタウン、コリアタウン、リトル東京、など様々な国の文化を体験できる場がありました。そして、アジアの人やヒスパニックの人を多く見かけました。まさに、一つの場所に世界中の文化が集まっている、という感じでした。私のホストファミリーは、中国、フィリピン系で、家の中では英語、中国語、フィリピン語が飛び交っていました。お母さんの作ってくれる料理はフィリピン料理で、今までに食べたことのない食事を体験することができました。



アメリカの人達は、全体的にのんびりしていました。朝の集合時間は、十時とかでしたし、全員が時間通りに集まったことは一度しかありませんでした。集合時間までに全員が揃わない事は、アメリカでは当たり前なのだそうです。とても驚きました。日本ではありえないと思ったのと同時に、生活にゆとりがあっていいな、とも思いました。

日本は土地が狭いため、マンションやビルが多く建っています。けれど、ロサンゼルスでは、高い建物はダウンタウン以外で見かけませんでした。そして、日本のようにあちこちに家が建っているのではなく、一本の道を挟んで幾つもの一軒家が並んでいるという感じでした。家の周りには、小さなお店がたくさんありました。日本ではあまり目にしないドリンク屋さんがたくさんありました。ドリンクの中でも、ロサンゼルスの人の間では、BOBA TEA（日本のタピオカ）がとても人気なのだそうです。日本ではあまり見かけませんが、現地ではそこら中にお店がありました。私自身、この約二週間半の間で五回以上BOBA TEA を飲みました。

この二週間半の派遣を通して、一番印象に残っているのは、ホストブラザー達と一緒に過ごした時間です。私のホストブラザーにはお兄さんがいました。私たちが外に出かけている時は一緒にいませんでしたが、家にいる時はずっと一緒でした。夕飯の後に三人でBOBA TEA を飲みに行ったり、ロサンゼルス有名な場所に、車で連れて行ってくれました。また、家でくつろぐ時間には、ロサンゼルス高校や大学について教えてくれたり、一緒に映画を観たりしました。本当の兄弟になったみたいで、自然に過ごせたので、とても嬉しかったです。また、日本では学ぶことのできない、スラングもたくさん教えてもらいました。高校生ならではのことも学べて、とても嬉しかったです。



☆最後に☆

今回、ロサンゼルスに派遣で行ったことで、物事についての見方、考え方の視野が広がりました。また、文化の違いを肌で感じることができました。国際的な交流において、互いの文化を知り、理解し合う事は、一番の重要部分だと私は思います。同じ地球に住んでいても、国の文化によって生活、食事、性格、考え方は全く違います。それは、テレビや情報だけでは実際に理解することはできません。実際に話を聞いたり、体験したりすることで、より理解することが出来るようになります。

このようなプログラムに参加でき、名古屋とロサンゼルスの架け橋となれたことを、心から光栄に思います。このプログラムの関係者、現地で知り合った人々、見届けてくれた家族、学校の先生方、そしてこのプログラムを通して巡りあった人すべてに感謝します。少しでも名古屋とロサンゼルスとの友好が深まるように、今回学んだことをたくさんの人に伝えていきたいと思っています。

そして、名古屋とロサンゼルスだけではなく、日本と世界中の国々の友好がもっと深まるように、国際的視野を広げていきたいと思っています。私は将来アメリカに力に住んで、現地の高校で日本語や、日本の文化を教えたいと思っています。

今回実際にアメリカの高校や大学に行き、アメリカの高校生と関わったりして、アメリカの学校について知ることができたので、とても嬉しく思います。自分の将来の夢を実現するための、大きなキーとなりました。

来年は、ロサンゼルスの高校生が名古屋に来てくれます。名古屋、日本の魅力を感じてもらえるように、貴重な経験となるとように、名古屋市代表としてしっかりと役目を果たしたいと思っています。





大都市の構造の違い

名古屋市立名東高等学校 1年 不破 ティナ

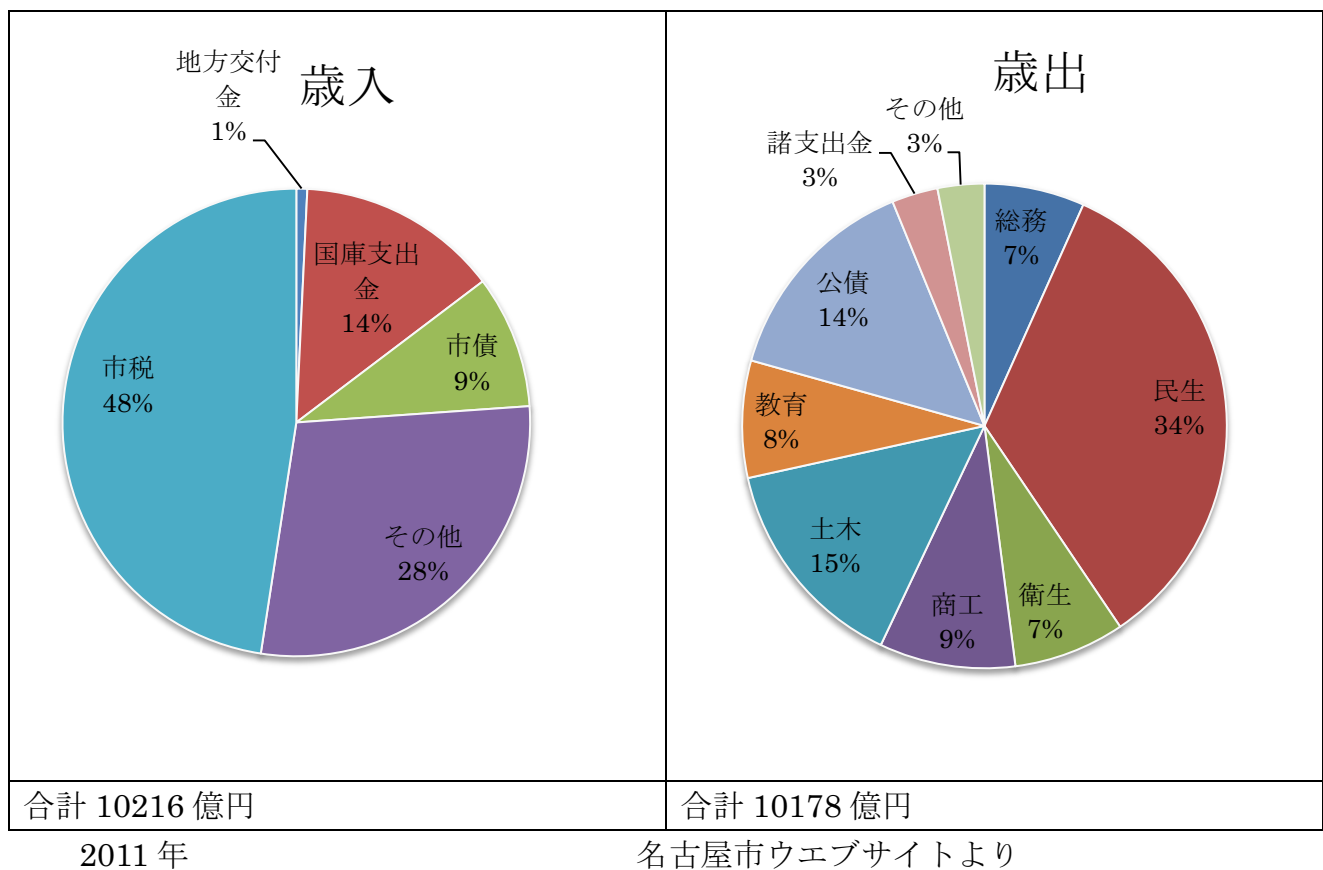
はじめに

私は将来海外で働きたいと思っていて、世界に通用する人材には何が必要か知りたかったのでロサンゼルス交歓留学に応募しました。そのためには、少しでも海外やロサンゼルスの仕組みや経済を理解するといいと思い、日本と比較してみました。文化や教育機関の比較とは、少し異なった視点から調べてみました。

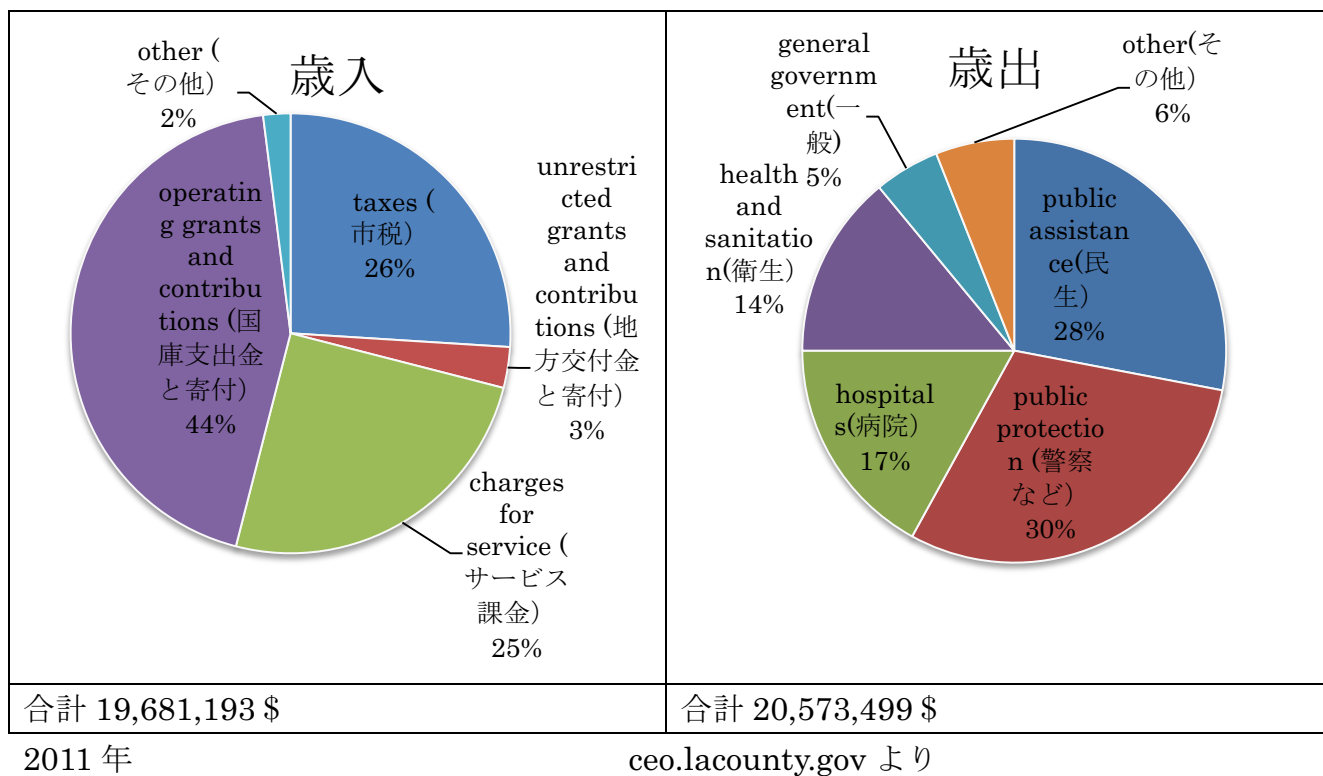
基本情報

	名古屋	ロサンゼルス
面積	326.44 km ²	1213.850 km ²
人口	2,296,014 人	3,792,621 人 (国内 2 位)
人口密度	7.031/km ²	3,041.3/km ²
失業率	2.6%	5.2%
観光地	 名古屋市科学館  名古屋城  熱田神宮	 Griffith observatory  Santa Monica  Universal Studios Hollywood

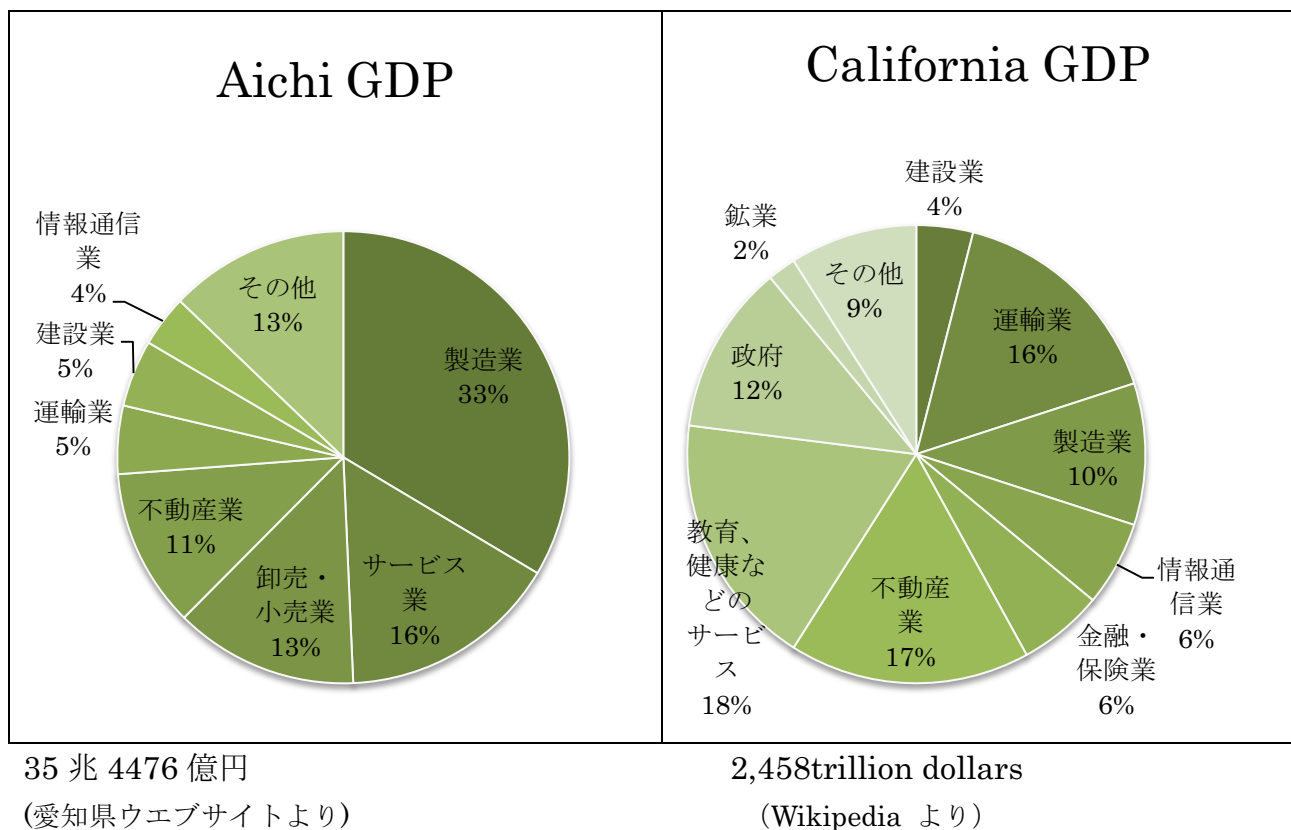
名古屋市 会計決算



ロサンゼルス市 会計決算



総生産 GDP 比較



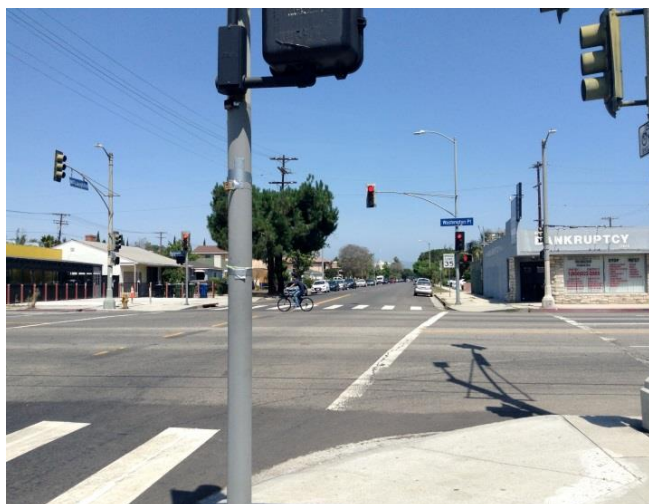
愛知県はイメージ通り自動車、造船や航空機などの製造業が主に占めます。それに比べると、カルフォルニア州は不動産やサービス面が主な部分です。

アメリカでは、政府からの医療サービスが充実してないため、そのサービスが大きなビジネスになっているのに日本との大きな違いを感じました。私のホストマザーにも医療制度について聞いてみたところ、かなり熱心に自分たちの家族や社会にとって大きな問題であることを話してくれました。家族が病気になったことで借金に追われてしまう人たちも少なくないとのことでした。

カルフォルニア州は不動産業が大きな部分を占めています。ホストもこのことについてロサンゼルス市の課題であると話してくれました。最近では、囲いなどで仕切られたアパートや家(gated community)が多く建てられていて、さらに貧富の格差を象徴するものになっている、さらにバリアを作っているものにもなっていることがあると言っていました。特に **San Francisco bay area** (サンフランシスコ・ベイエリア) など土地の値段が高いのが問題。最近では、だいたい大きな都市は土地の値段が高い問題を抱えていると思いました。

カルフォルニア州はそこまで大きな経済規模だとは思ってなかったが、アメリカで一番大きな経済を持っていることに驚かされました。愛知県は製造業、カルフォルニア州はサービスや観光というイメージがあったのですが、カルフォルニア州は他にもさまざまなビジネスをしている事が分かりました。愛知もカルフォルニア州もそれぞれ似たような名目が多かったので思ったより共通点があることがわかりました。

その他 体験を通して



ロサンゼルスの様子

ロサンゼルスには、電車やバスがあるが便利な場所になかったり、定刻通りに運行されないことがあるので、車で移動する人がほとんどです。なので、ホストファミリーとドライブをする事が多く、車中でロサンゼルスについてたくさんの知識を教えてくださいました。

私にとってこの時間が一番楽しかったです。車窓から市内の様子を見ながら、映画などで聞いたことがある場所にいることに興奮しました。道路がとても広くて驚きました。色々な文化がある町なので、車で少しドライブするだけで全く違う地域の様子が見られて興味深かったです。



車移動の人が多いため、時間帯によっては大渋滞に巻き込まれる事が多かったです。



ロサンゼルスならではの景色



自分の成長に大きくつながった事は、ホストファミリーたちが気軽に私たちに話しかけてくれ、いろいろな話をしてくれた事だと思います。アメリカの人は政治や社会問題についてたいへんオープンに話してくれて、新しい視点を身につける事ができたと思います。最高の友達ができてうれしいです。

一つ大変印象に残っている事が、ホストの一人がアメリカでは仕事でも性格を出す事が大事と言っていた事です。意識して観察してみると仕事中でも個性が出ていて、店を出るときに“have a nice day “とか気軽に話してくれるのに気がつきました。いつの間にか”店員”ではなく個人として見られるようになりました。自分の性格は自分の武器になることをもっと日本人が知る必要があると思いました。

最後になりましたが、LANSCA の関係者、名古屋市国際交流課の皆様、ホストファミリー、名古屋市、ロサンゼルス市にこのような機会を与えていただき心から感謝しています。自分にとって大変有意義な経験になりました。これから少しでも LANSCA に協力できたらうれしいです。この貴重な経験を生かして将来国際社会で活躍できるように努めていきます！

Thank you

■派遣事業を振り返って

「第28回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業を振り返って」

名古屋市立名東高等学校 教諭 久賀 史恵

平成28年7月23日から8月9日まで、ロサンゼルス交歓高校生派遣事業の引率として、4名の生徒と共に、私自身もホームステイをさせていただき約2週間ロサンゼルスで過ごしました。

私達がお世話になったロサンゼルス側の受け入れ生徒と教員は、昨年名古屋に派遣され、名古屋でのホームステイ、高校生活を体験した方達です。その時の思い出を胸に、1年間私達の訪問を心待ちにしておられました。そしてこの約2週間の間、私達の滞在が自分たちの名古屋での滞在のように素晴らしいものになるようにとご家庭が協力し、昔からの友人、家族のように受け入れ、助け、もてなして下さいました。

この期間、私達はほぼ毎日、LANSCA（ランスカ）のご厚意とご尽力により準備されたプログラムに従って、ロサンゼルス側のホスト生徒4名とロペス先生、名古屋からの派遣生徒4名と私の10名がLANSCA交歓チームとして各所を訪問し姉妹都市ロサンゼルスの魅力を体験する貴重な時間を過ごしました。以下日程・行事ごとに今回の派遣事業を振り返りたいと思います。

□事前研修会・名古屋市役所表敬訪問

7月10日、派遣団が初めて集まりました。派遣生徒が抱負を語り、旅行や手続きについて説明を受けた後、前回の派遣生徒からロサンゼルスでの生活の様子の紹介、生活上のアドバイスを受け、2週間後のロサンゼルス派遣をより現実的なものと感じました。午後は、初めて顔を合わすメンバーでありながら、現地での発表や研究テーマについて活発な話し合いがなされ、それぞれの得意分野を生かした役割分担や発表内容が決められました。

7月20日の名古屋市役所表敬訪問では、観光文化交流局長様、観光交流部長様、国際交流課長様より激励の言葉をいただき、姉妹都市の友好親善を広め深める大切な使命があることを再確認しました。またそれぞれの生徒がロサンゼルスでの経験に対する期待や抱負を語りました。

□ロサンゼルス到着、ホストファミリー

空港に着き、ゲートを出ると、LANSCA 委員の方々や、ホストファミリーに大歓声で迎えられました。それぞれの生徒のための歓迎のポスターやグッズも準備されていました。メールなどを通じて出発前にすでに交流を持った後の対面で、感激もひとしおでした。

この日からのホストファミリーとの生活が何よりも派遣生徒にとっての一番の思い出となり、学びとなりました。各ホストファミリーはアメリカの縮図のような様々な文化背景を持った家庭で、言語環境、食べ物、家の中で目にするものすべてに、生徒たちはその文化やご家族の歴史を感じたことと思います。また、大都市ロサンゼルスでの生活が、外か

ら想像する典型的なアメリカの生活とは、住宅事情や交通渋滞など様々な点で違うことも実感し、同時に日々の忙しい生活の中に人との交流やレジャーを楽しむ場が豊富にあることも実感しました。このホームステイ滞在中に育まれる友情や信頼、また互いの文化習慣に対する理解や尊敬が、ロサンゼルスと名古屋の姉妹都市提携の歴史の中で大切に引き継がれている友好・親善の根幹に流れているものと思います。

□ロサンゼルス市内見学

到着直後の週末を家族と過ごし、翌週初日のハリウッドハイランド見学に始まり、滞在中は広大なロサンゼルス市に点在するたくさんの場所を訪問しました。

ハリウッドでは、いくつもの地点を巡り写真をとって本部に送信する、というオリエンテーションを企画していただき、2時間ほどの間、ハリウッドの町並みを二つのグループに分かれて駆け回りました。その他に、本場のユニバーサルスタジオ、サンタモニカビーチ、Grove ショッピングモール、リトル東京、ディズニーコンサートホール、グリフィス天文台、ゲッティ博物館など多くの場所を訪問し、ロサンゼルスには、訪れる人たちにとって魅力的な場所が尽きないことに驚きました。

□LANSCA、市役所表敬訪問

私達はこの滞在中、名古屋との姉妹都市交流を運営するボランティア団体であるLANSCA 委員の方々のご尽力で、安全で有意義な時間を過ごさせていただきました。一宮出身のワインバーグ照子委員長は、お忙しいお仕事を持ちながら、両市の交流の充実のために、またこの高校生交歓事業に参加した生徒が今後も関わりを持ち盛り上げてくれることを願って、新しい取り組みを模索しておられます。また、約2週間の滞在計画をアレンジしてくださったペレー先生も市内の高校の教頭先生のお仕事をしながら日々私達のためにご尽力くださいました。

8月3日（水）、私達は照子委員長、ペレー先生と合流し、ロサンゼルス市役所を表敬訪問しました。入口のセキュリティーを通り、名古屋から寄贈された山車のミニチュアなどの展示物のあるフロアに案内され、その後、実際の市議会の場に招かれました。エルサルバドルからのもう一つの姉妹都市団が紹介された後、私達も姉妹都市名古屋からの交流団として紹介され議員の方と写真を撮るという名誉ある体験をさせていただきました。

□高校体験、UCLA 大学体験

7月26日（火）に、ロサンゼルスダウンタウンの高層ビル街を一望できる所に位置する Edward R Roybal（エドワード・R・ロイバル）高校を訪問しました。いくつかの高校が1つのキャンパスに設置されているという大きな敷地内を案内していただいた後、市内の高校生が参加する大学教授による美術の講座に参加しました。

8月5日～7日の3日間、新しい企画としてアメリカの大学を体験する機会を設けていただき、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）での高校生のためのサマープログラムに参加しました。それは、ロサンゼルス市内高校の3年生のためのオリエンテーション合宿で、LANSCA 交歓高校生8名は特別に日帰りで参加させていただきました。アメリ

カの大学入試は、日本のように1回のテストで合否が判定されるようなものではなく、高校生活3年間での多方面に渡る取り組みを総合して判定されることや、そのための準備が日本における受験勉強とは違う意味で大変骨の折れることを知る機会となり、海外の大学への進学について知り考える機会にもなりました。

初日にはキャンパスにあるプラネタリウムで私達のための特別なショーを見せていただき、最終日の閉会式では、日本から準備していった日本文化紹介のパフォーマンスを披露する機会をいただきました。ロサンゼルス側のホスト生徒とのコラボレーションで展開するダンス、歌、書道に関するクイズなどのパフォーマンスに対して、200人を超えるアメリカの高校生が歓声を送り、温かく盛り上げてくれる中、楽しい交流の時間を過ごしました。

多くの方々に支えられてこの派遣期間を過ごす中で、この派遣事業が、長年に渡り二都市間の強い信頼と協力の下で運営され実施されてきたことを実感し、その時々に関わられご尽力された多くの関係者の方々に深い敬意を感じています。参加した生徒が、これからの人生の中でこの派遣を通じて得た多くの感動や新しい感覚と視点を持って、それぞれの場で影響を与える人材となること、またどこにいても名古屋市、第二の故郷ロサンゼルス市に想いを寄せ二つの都市の友好・親善の発展を願い応援してくれることを期待します。

最後になりましたが、今回の派遣事業が無事に、そして成功のうちに終了しましたのも、ホストファミリーの方々、LANSCAの関係者、名古屋市国際交流課、教育委員会、全ての皆さまのご支援、ご協力のお陰です。心から感謝を申し上げます。

■思い出の写真

ロサンゼルス空港での歓迎



エドワード・R・ロイバルハイスクール体験



ロサンゼルス見学・LANSCAとの交流



ハリウッドにて



ゲッティセンターにて



サンタモニカエリアにて



グリフィスパーク天文台にて

ロサンゼルス市役所訪問



ロサンゼルス市役所にて



ロサンゼルス市議会にて

UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）通学体験



キャンパス内のプラネタリウムにて



Good Bye Party での出し物披露の様子

ロサンゼルス空港でのお別れ



第28回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業報告書

主 催：名古屋市

発 行：名古屋市